

家庭教育部

「高齢者セミナー」報告

家庭教育部長 三浦峰人

7月20日世田谷中央教会を会場に第一回高齢者セミナーを開催し、東京基督教大学准教授の井上貴詞先生に「高齢化社会と神の家族の新しいかたち」というテーマで講演していただきました。

先生の講演のまとめとして、教会が行う福祉の意義の一つに「信仰告白の実践」であるというお話をされました。キリストによって愛と恵みを受けた者が愛を実践し、具体的に愛を現わす機会としての福祉。そしてその実践こそが神のかたちの回復、成熟につながることを覚えさせられました。

また、参加された方々の感想をいただきました。セミナーの音源も後日家庭教育部のホームページにアップさせていただきますのでご利用ください。今後とも家庭教育部では同様のテーマで講演会等を計画していきたいと願っていますので、次回以降の高齢者セミナーにご期待いただければと思います。

(衣笠中央キリスト教会牧師)



講師 井上貴詞先生

◆参加者の感想

◇浜田進(北秋津キリスト教会)

関東近辺、遠くは愛知県からの参加者もあり、34名で行われました。井上貴詞先生による講演と2教会(高麗聖書教会・衣笠中央キリスト教会)の実際的な取り組み(高齢者向け体操クラブ)が紹介されました。

現代社会は、社会の役に立つか否かで人を価値する傾向が強くなり、生きづらさを感じる人々が増えつつあります。すべての人は、神のかたちに創造された尊い存在です。いのちが軽視される時、一番悲しみ、痛みを覚えておられるのは神さまで、超高齢化社会の中で教会は、

その信仰を告白する共同体であることは勿論、その信仰を實踐する信仰生活共同体として互いに愛し仕え合い、神のいのちを育む本当の家族になることがますます重要であることを教えていただきました。そして、地域の人々にどのように仕えたらよいかを模索することも大切な課題です。行政だけではできないことを教会が連携することも一つの方策だと教えられました。

また、ご高齢の方にやさしい大きな文字で、横になったままでも読めるコンパクトサイズの聖句冊子「聖書一言メッセージ」の紹介、販売もさせていただきました。感謝でした。

◇矢田留津子(矢作キリスト教会)

私はキリスト教主義の老人ホームで働かせていただいております。日々、出会う方々は、お元気な方もおられますが、年を重ねることにより弱さや病を負って歩んでおられる方々です。お一人お一人から教えられ、励まされ、共に時間を過ごす事ができる事を感謝していますが、改めて、井上先生のお話により、老いや死という「喪失」と痛み、悲しみの連続の中でも日々新たにされる内なる人」として生きる事ができる恵み、また復活の希望に生きる事ができる救いと希望を教えられました。

また日本各地の教会が行っている地域に根差した高齢者のための取り組みを聞く事ができありがとうございます。



会場の様子

